

# 口永良部島

## 火山活動評価：やや活発な状況（レベル2）

火山性地震や火山性微動がやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

現在の火山活動度レベルは2です。平成 17 年 2 月 1 日の導入以降、レベル2が継続しています。

### 概況

- ・ 噴煙活動

監視カメラでは、新岳から高さ 40m の噴気が観測されました。

古岳からの噴気は観測されませんでした。

- ・ 地震、微動活動(図2、図3)

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 181 回(12 月：201 回)でした。火山性微動は、10 月からやや多い状態が続いており、月回数は 21 回 (12 月：32 回)でした。火山性地震の震源は、新岳火口周辺のごく浅いところに分布しました。

- ・ 地殻変動(図4、図5)

GPS 連続観測では、短期的には地殻変動に特段の変化はありませんでした。

- ・ 熱活動(図6)

14 日に行った古岳からの観測では、新岳の南西側斜面は、2006 年 10 月 30 日と同じく熱活動の高い状態が続いていました。

- ・ 火口、噴気地帯の状況

噴気地帯の状況に変化はありませんでした。

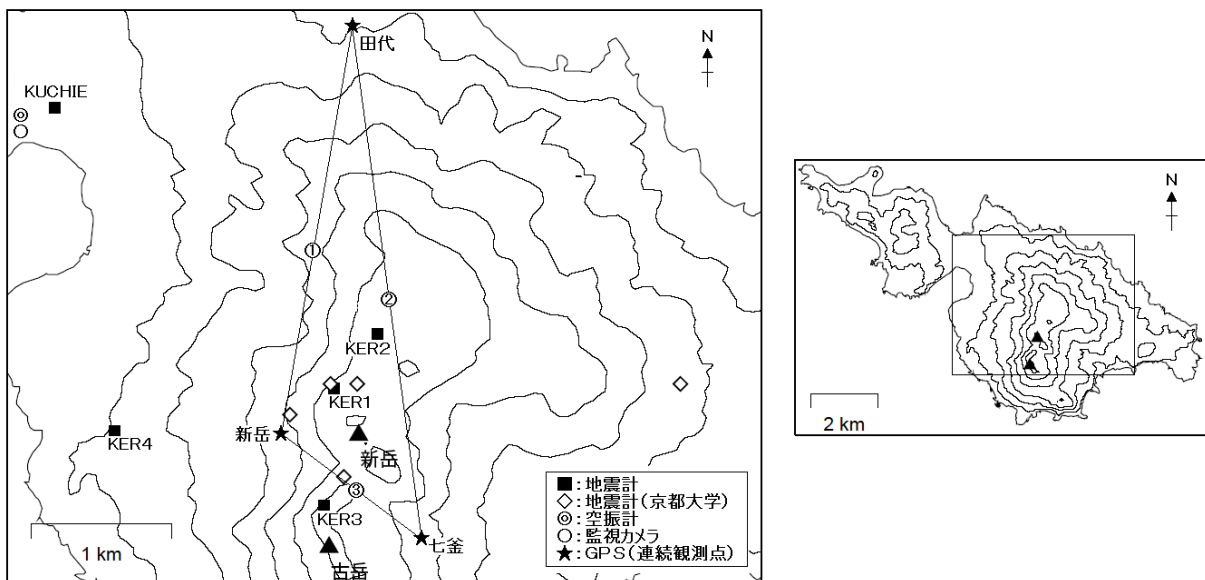


図1 観測点配置図

資料は、気象庁のデータの他、京都大学のデータを利用して作成しました。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

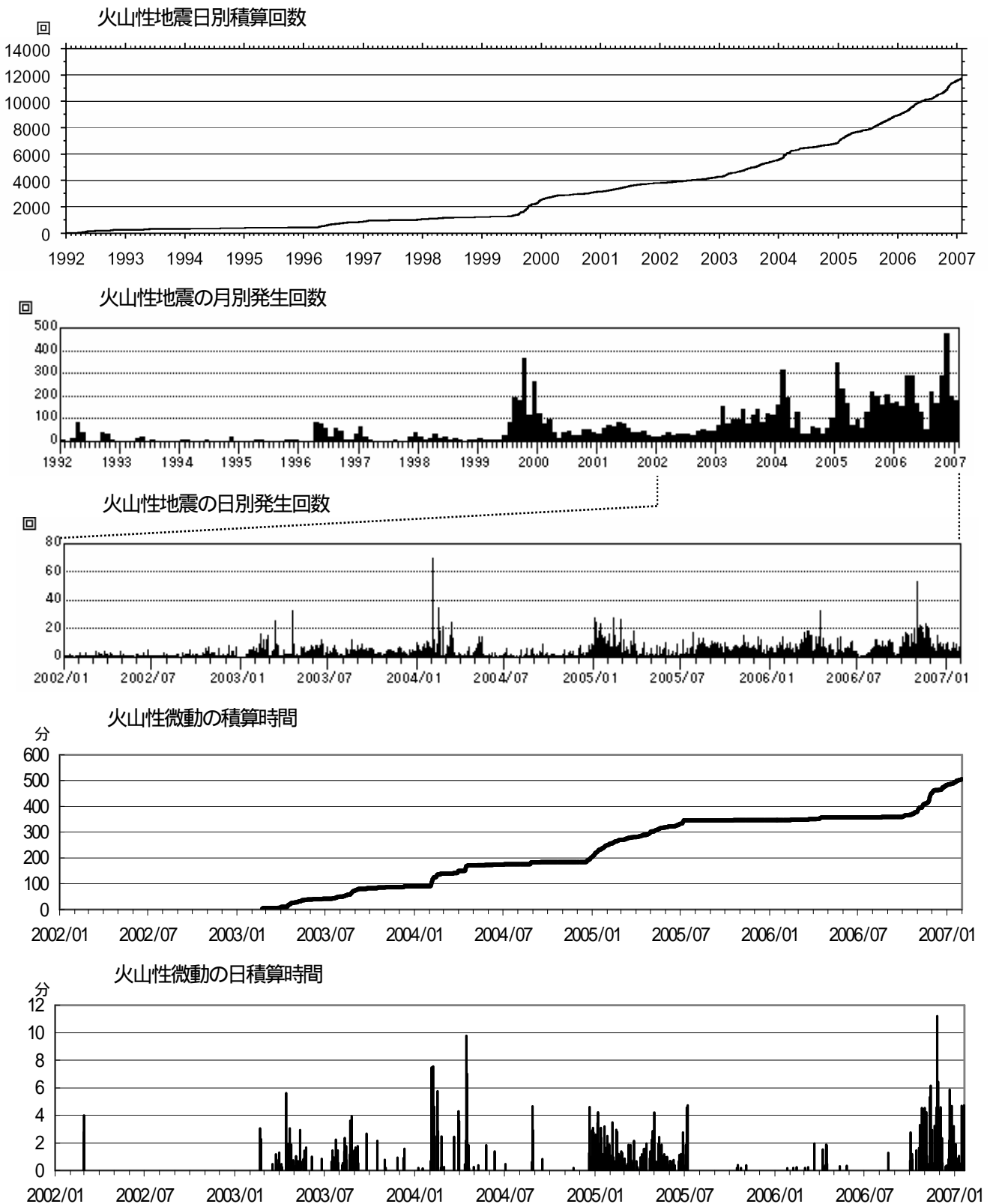


図2 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日~2007年1月31日)

- ・ 2005年7月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
- ・ 火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。継続時間が約5~6分間の微動を2回観測しました。
- \* 1982年1月1日~1999年9月12日及び2005年12月15~28日までは京都大学のデータを使用しました。
- \* 2002年12月22日~2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日~9月18日、2005年11月5日~12月14日まで地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

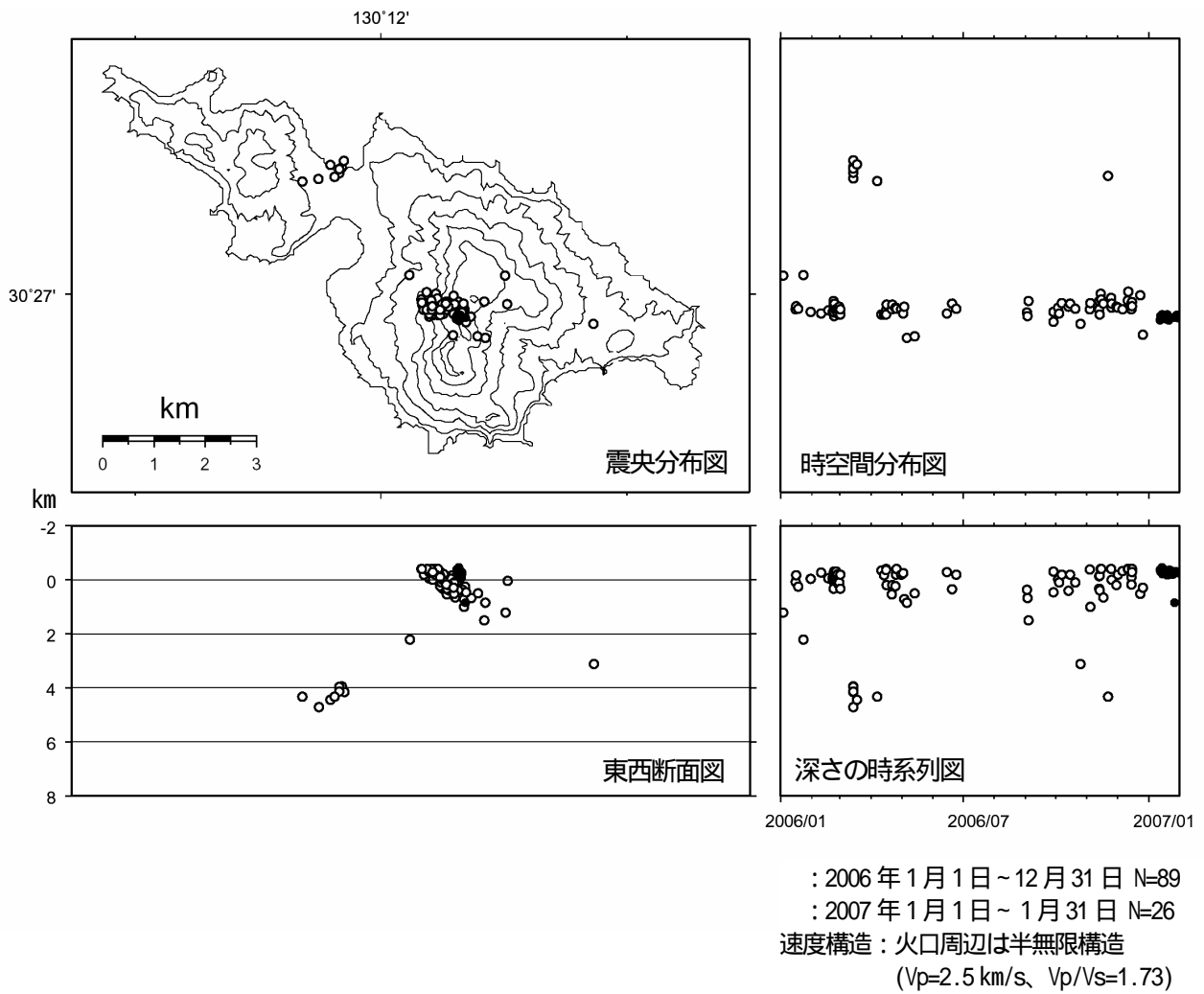


図3 口永良部島周辺の地震活動図(2006年1月1日~2007年1月31日)

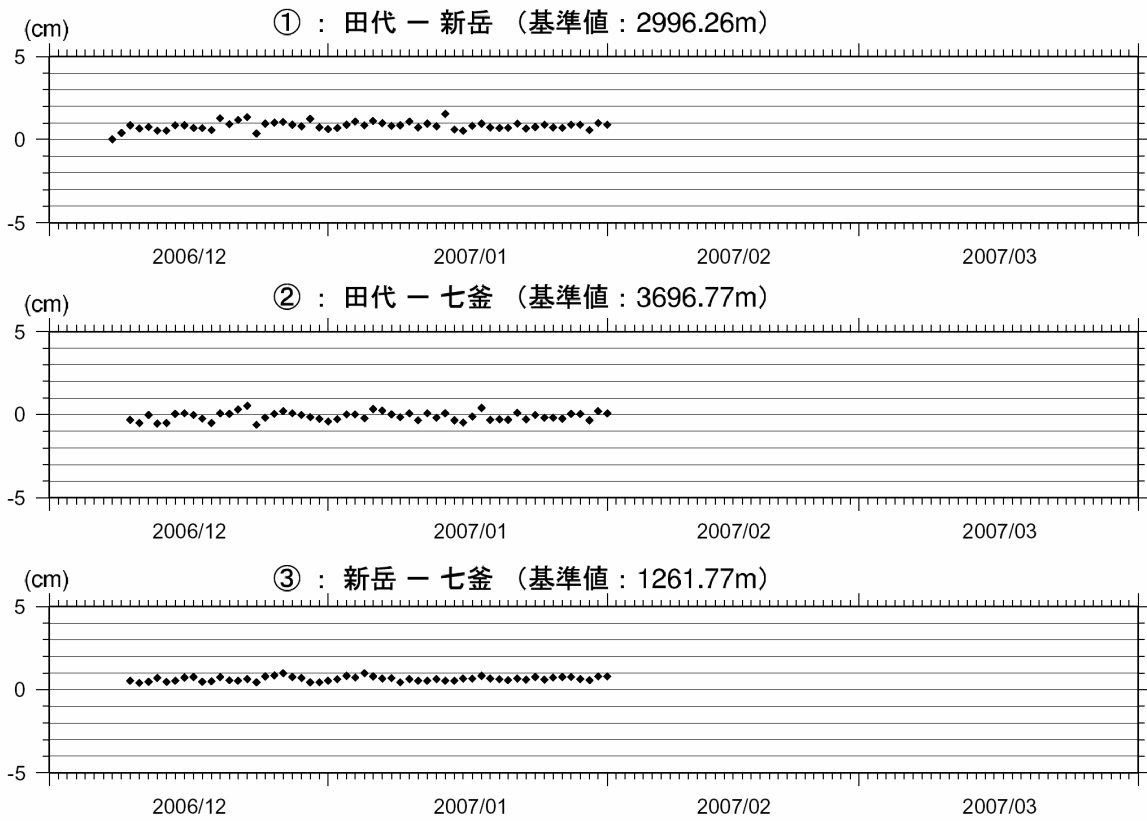


図4 GPS連続観測による基線長変化図(2006年12月8日~2007年1月31日)

短期的には地殻変動に特段の変化はありません。

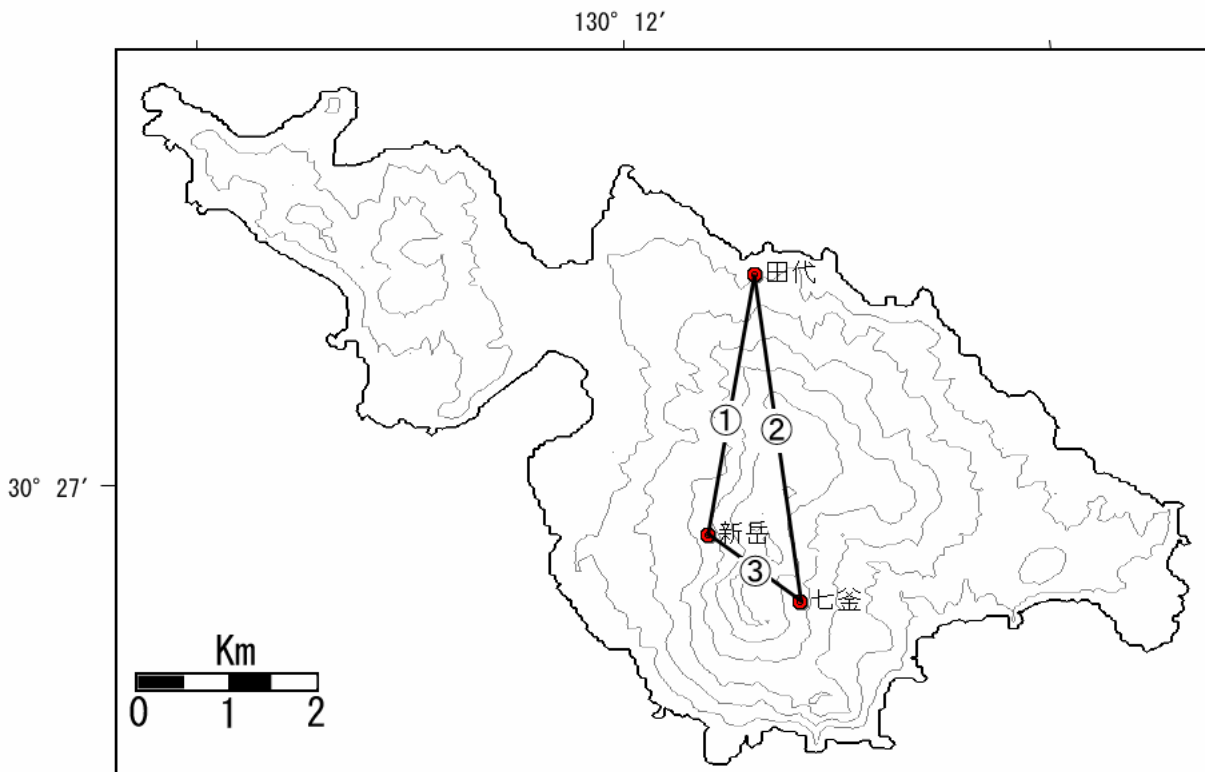


図5 GPS連続観測点と基線番号

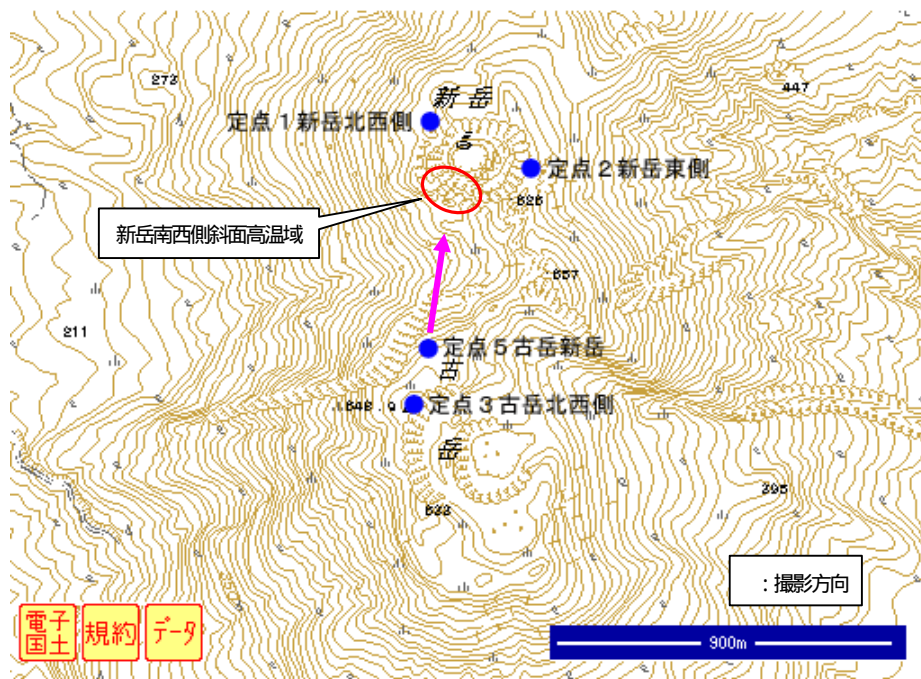


図6 熱観測定点位置図

これまで、定点1、2、3、5で熱観測を行っていたが、2007年1月14日の観測では、定点5のみ観測を行った。



2006年10月30日撮影



2007年1月14日撮影

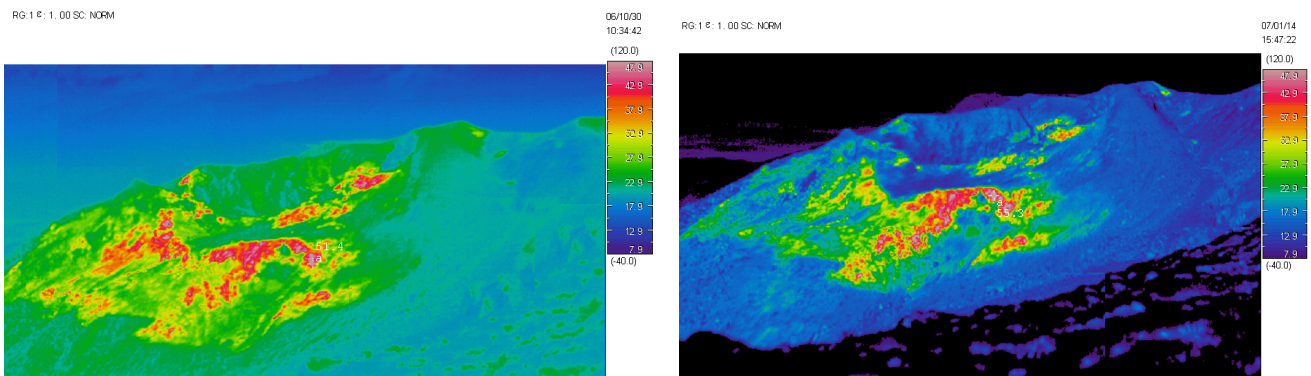


図7 可視画像と赤外熱映像観測結果(2007年1月14日実施)

新岳火口 古岳から撮影(赤外熱映像装置による<sup>1)</sup>) 左 2006年10月30日 右 2007年1月14日

新岳の南西側斜面は、2006年10月30日と同じく熱活動の高い状態が続いていました。